



## 子牛の見方について

肥育牛を高値販売するためには枝肉重量や歩留まりをいかに良くするかがポイントになります。子牛の下見をしっかりと行ない、将来性のある子牛を選定しましょう。

### ☆全体

前軀(首のあたり)、中軀(腹のあたり)、後軀(腰のあたり)の幅や深さを確認しましょう。尻に張りがある牛は増体しやすい牛です。骨格がしっかりしていてフレームの大きい牛や粗飼料で腹がきちんとできている肋張りの良い子牛を選びましょう。

### ☆太り具合

太って体重があるのではなく、骨格がよく発達していて体重がある牛を選びましょう。このような牛は肥育に移ってからも順調に餌を食べ、枝肉重量が期待できます。最近には特に濃厚飼料多給により太っている牛が多く見られます。このような牛は肥育の伸び盛り時期に十分な餌を食べず、栄養が皮下脂肪や内臓脂肪にまわってサシが入りにくくなり、歩留まりも悪くなってしまいます。

## 太り具合のチェックポイント



### ①皮膚

皮膚を触ってみましょう。つまんで伸びるようであれば皮膚にゆとりがあり、肥育した時に枝肉重量が期待できます。つまめない、伸びないようであれば皮下脂肪が多いとみなされます。

### ②お尻

尾元が太く、尾幅があり、尾枕(尾の付け根の脂肪)が付いていないかチェックしましょう。尾枕が付く＝腹腔内脂肪がついているということになります。

### ☆顔

額の幅が広く、目に活力がありキリッとして、口が大きく、あご張りが良いものが好まれます。反芻し、噛む回数が増えるとあごや首が発達して顔も幅広くなり、粗飼料をきちんと与えていたということが推測されます。

### ☆足

堂々と立ち、前足2本の間隔が広い(胸幅や肩幅が広い)と肉がたくさん付くことが期待できます。足腰が強いと自分の体重をしっかりと支えられるので、よく食べて大きくなります。

### ☆角

離乳や雄の場合は去勢ストレスによって角に数本の筋ができますが、筋がたくさん見られる牛は病気など何かしら別のストレスがあった可能性が考えられます。

### ☆その他

- 風邪を引いていないか、便の状態はどうかを確認しましょう。
- 落ち着きのない牛、神経質な牛、人に慣れていない牛は十分気を付けましょう。